

JR四国労組 自動車支部 ニュース

2021年9月10日（No.1 / 1終）

発行責任者 / 大谷 清 編集責任者 / 中村 鉄平

第38回定期大会開催！

JR四国労組自動車支部は、9月9日、香川県宇多津町「ホテルアネシス瀬戸大橋」において『自動車支部第38回定期大会』を開催した。

昨年来の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、代議員と一部の来賓に参加者を限定し、会場においては検温・マスク着用の徹底、社会的距離の確保など、感染対策を十分に施した上で開催し、四国各地から総勢約30名が参集した。

大会は岩本副執行委員長の開会の挨拶で始まり、資格審査委員会、議事運営委員会の設置後、松山分会の岡田代議員を議長に選出し議事に入った。

冒頭、自動車支部を代表して挨拶に立った上田執行委員長は、新型コロナウイルス感染症のリスクを抱える中での「安全・安定・安心輸送」の取り組みに敬意を表したうえで、「この間、待命休職をはじめとして、定期昇給や賞与についても苦渋の決断を強いられてきたが、今回さらなる会社提案も出されている。確かに会社がなくなれば雇用が守れないが、止まない雨はない。この苦難には労使が協力して立ち向かわなければならない」と決意を述べた。

来賓として挨拶に立った、ジェイアール四国バス・前川常務取締役運輸営業部長からは「新型コロナウイルス感染症の影響が昨年以上に重くのしかかっており、労使で乗り越えていかなければならない。さまざまな施策を講じていくが、会社を存続させることが何より雇用維持につながる」と述べた。

その後、JR連合自動車連絡会・西原代表幹事の挨拶を受けた後、JR四国労組本部の大谷執行委員長は、自動車支部の今日までの取り組みに対して敬意を表するとともに、当面する諸課題についてしっかり議論し、意思統一を図るよう要請した。

議事では、感染対策のため時間短縮に努めながら進行し、執行部より経過報告、会計報告・監査報告、2021年度活動方針（案）、予算（案）の提起を受けたのち、4名の代議員から労働条件の維持や雇用の確保にむけた取り組み等の質疑を受け、執行部答弁の後、満場一致で全ての議案が承認された。役員改選では、上田執行委員長らを再任するとともに、竹崎書記長を副執行委員長、河野書記次長を書記長として、また仲田執行委員、藤田執行委員、菊内会計監査を新たに選出し、新体制を確立した。

最後に、自動車支部が一致団結してこの難局を乗り越えるべく、上田執行委員長の「団結ガンバロー」で閉会した。

以上